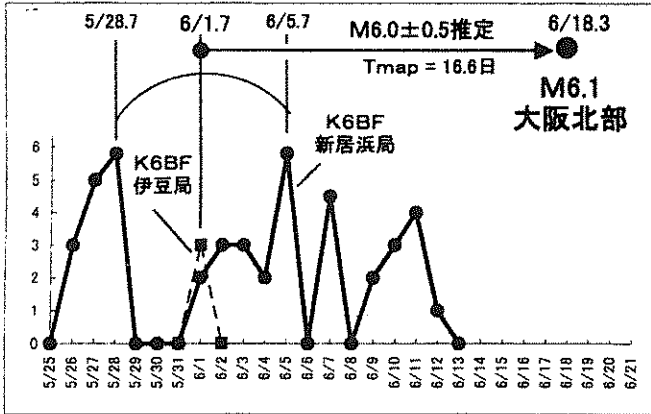


原稿校了後の前兆変化について

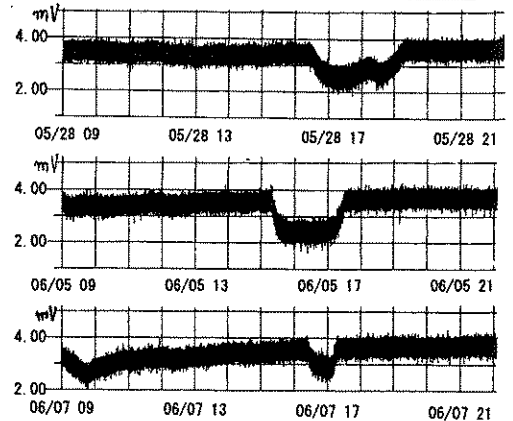
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

6/18 大阪府北部M6.1地震 前兆検知成功 予報=規模・領域は良好 時期は失敗



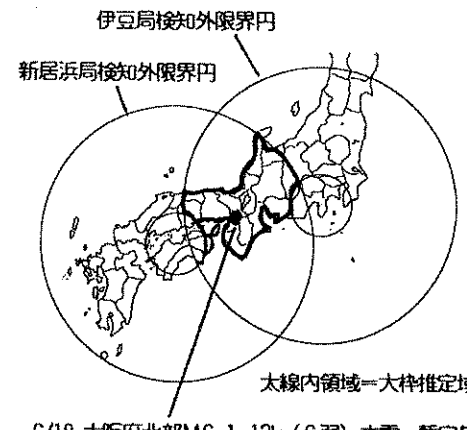
左図は大阪北部地震の前兆出現状況グラフ。

右波形は高知観測点K6観測装置に観測された主なBF地震前兆。



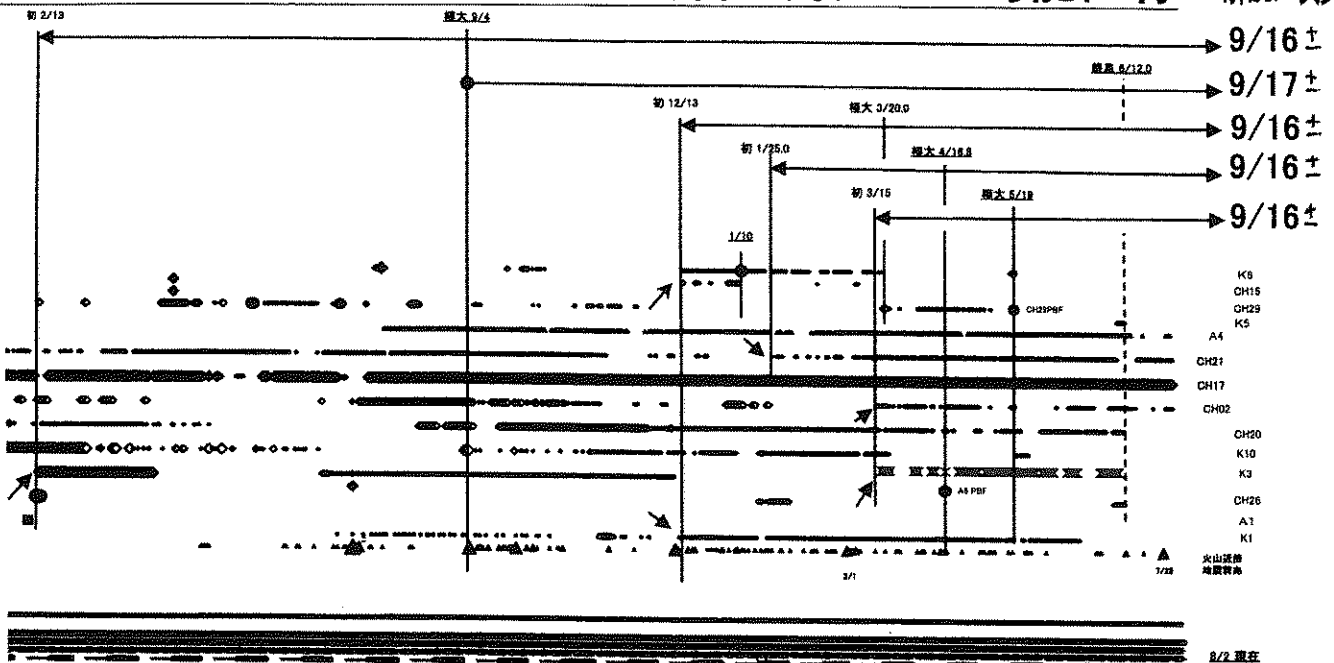
No.1778前兆以外の報告ですが、6/18発生のお阪府北部M6.1地震は前兆を観測でき、6/7時点で 推定領域=右図太線領域内 推定規模=M6.0 ± 0.5 推定発生時期=6/29 ± 3 と云う予報を配信公表。主な前兆が高知観測点のK6のBF地震前兆のみで、新居浜局と伊豆局によるBF前兆認識で (No.1778前兆も有) 右図の太線領域と云う大枠域しか絞り込めませんでした。前兆は上図左側のとおり、5/28と6/5に前兆ピークが観測されました。二つのピークを5/28主極大、6/5副極大と解釈し、主～副極大間=Tps主極大～地震発生=Tmapとしたとき、Tmap:Tps=3.7:1(平均) 経験則を使用し発生時期を推定致しました。しかし実際は5/28と6/5の二つのピークが中心となるお碗型(ツノ型)極大でした。このため発生推定時期に大きな誤差が出て失敗しました。推定領域・推定規模は概ね良好。当地震で犠牲になられた方のご冥福をお祈り致しますと共に被害にあわれた皆様にお見舞い申し上げます。

- ◆領域 予報=近畿圏広域 実際=大阪府北部
- ◆規模 予報=M6.0 ± 0.5 実際=M6.1
- ◆時期 予報=6/29 ± 3 実際=6/18



6/18 大阪府北部M6.1-13km(6弱)本震 暫定値

No.1778長期継続前兆続報 早い場合9月発生の可能性有 解説は次頁

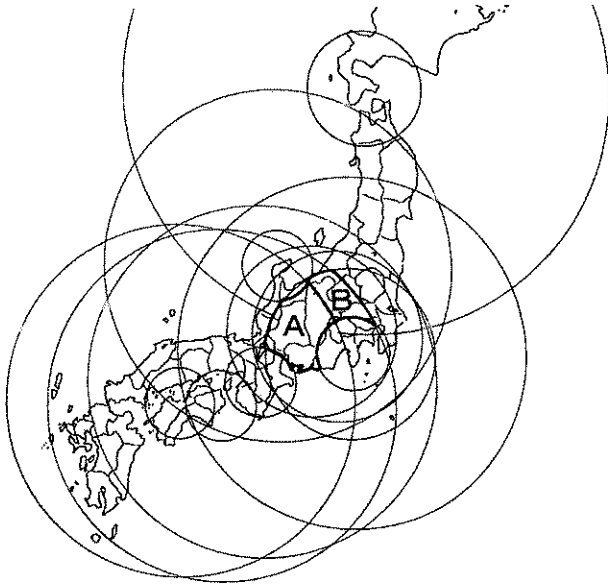


2017年2月 2017年3月 2017年4月 2017年5月 2017年6月 2017年7月 2017年8月 2017年9月 2017年10月 2017年11月 2017年12月 2018年1月 2018年2月 2018年3月 2018年4月 2018年5月 2018年6月 2018年7月 2018年8月

原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778長期継続前兆続報 早い場合9月発生の可能性有



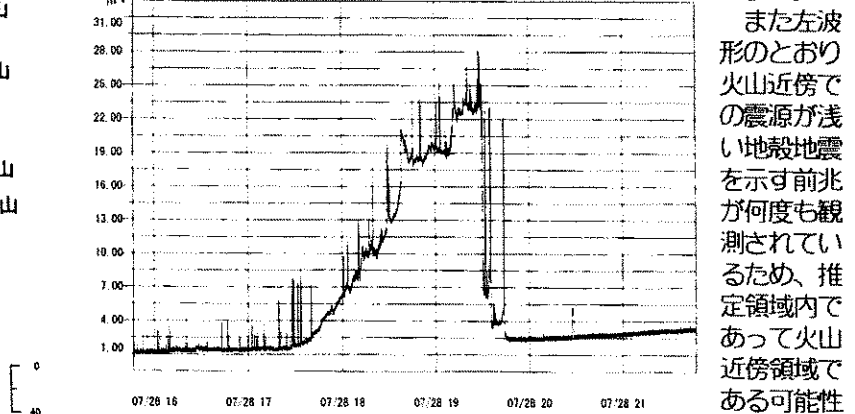
2008年07月から出現したし、過去例の無い10年に渡って継続出現している大型地殻地震が推定される地震前兆群No.1778の続報です。日々E-mail, FAXで配信しております「地震前兆検知・観測情報」では、本年05月18日配信のNo.2998観測情報の時点で、No.1778前兆は09月又は10月発生の可能性、それ以前の可能性は否定と云う内容を報告しておりました。本HPでは更新が大変遅くなりましたことを深くお詫び申し上げます。

No.1778前兆は、前頁下図のとおり、秋田観測点A6やハヶ岳南麓天文台CH29等に連続BF (PBF) が出現するなど、ピークを作りながら継続し、06月中旬以降は前兆が減少し、現在継続出現している前兆は、ハヶ岳のCH17とCH21 (21=前兆が弱くなってきました) が主で、断続的に弱い前兆がA4, CH2等に見える状態となっています。

現在迄の前兆の関係から、早い場合は9/17±を示す可能性が示唆されています。この前兆関係認識が正しい場合、最終極大が5/19認識で正しい場合は08月17日頃に前兆が終息する可能性が計算できます。今後の観測で終息するか、継続するかは続報させていただきます。

左図は主なBF, PBF前兆と特異前兆の出現影響局推定から経験則による前兆出現ドーナツ円を重ねた推定領域図です。同じ周波数に新居浜と函館があるため、新居浜の方が考えやすいですが、A領域とB領域の二つの領域の可能性が示唆されます。

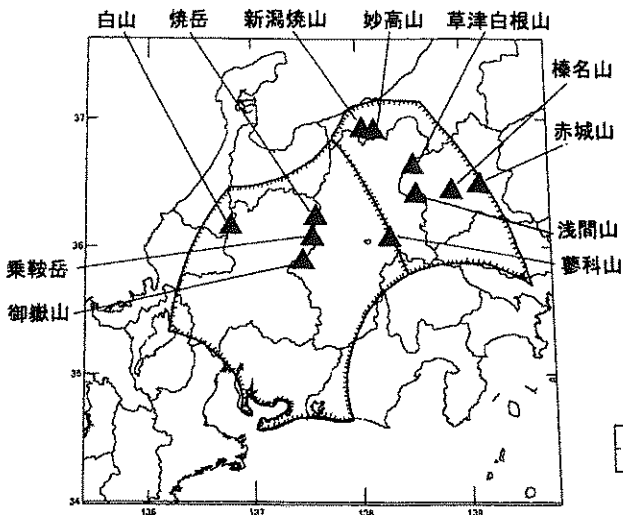
また左波形のとおり火山近傍での震源が浅い地殻地震を示す前兆が何度も観測されているため、推定領域内であって火山近傍領域である可能性が示唆されます。左図左は推定領域内の主な



7/28 出現の顕著な火山近傍地殻地震前兆 CH26
過去例との変動値の比較からM7.8 ± 0.5 相当を示す

火山を示します。推定領域内であって、火山から半径約40km領域を推定しますと、左図の斜線領域内の可能性が示唆されることとなります。ハヶ岳南麓天文台周辺も含まれます。

- ◆推定領域： 大枠推定域=左図太線領域内 (A又はB領域 Aの方が若干考えやすい)
可能性が高い推定領域=斜線領域
- ◇推定地震種：震源が浅い地殻地震 陸域 (火山に近い領域の可能性有)
- ◆推定規模： M7.8 ± 0.5 (多数の PBF出現継続時間計より)
- ◆推定時期： 早い場合9月17日±2 (但し8月17日±前兆終息が条件)
 - ・8月下旬時点で前兆継続の場合は続報で修正
 - ・9月上旬迄発生の可能性は否定
- ◇推定発生時刻：午前9時±1時間 (または午後6時±3時間) の可能性有 (基線幅増大B Tの日々の出現終息時刻測定より推定)



推定領域と推定領域内の主な火山

